



図3. プレイ-カーティス類似指数系藤樹。調査場所のナンバーが末端枝の横に示され、表2に示されている位置に対応している。類似レベル79で"切断"すると、17個のグループができる(クラスター横にナンバー表示)これらのグループはさらにまとめられ(本文参照)、ランク付けされた生息数のグラフを構成する(小さい棒グラフA-I)。各棒グラフには、同じ特徴を共有しているグループ・セットが含まれる:y軸-VL: 非常に低い、L: 低い、M: 中程度、の生息数。x軸-B: チョウウオ類、G: ハタ類、S: コショウダイ類、D: ガンガゼ類、HC: ハードコーラル、L: イセエビ類。棒グラフの中の枠内:調査場所の数-IP: インド-太平洋間、RS: 紅海、C:カリブ海、MP: 海洋保護区、T: 各グループ・セット内の調査場所合計数。

接しているとは限らないのです。

共通の特徴

これらのセットは、3海域におけるサンゴ礁生態の相違と人為的な相違の混合を示しています。クラスター分析とランク付けによると、ほとんどのリーフでは世界的規模で

指標生物の生息数が少ないことが解ります。残りのリーフでは、地域的な規模において、世界中に分布している生物の生息数レベルが類似していることを示しています。例えば、第1番目のセット(図3A;グループ1、10、14、17)には、ほとんどの調査場所(167カ所、あるいは全体の55%)が含まれ、また3海域それぞれの調査場所も含まれ、ハード